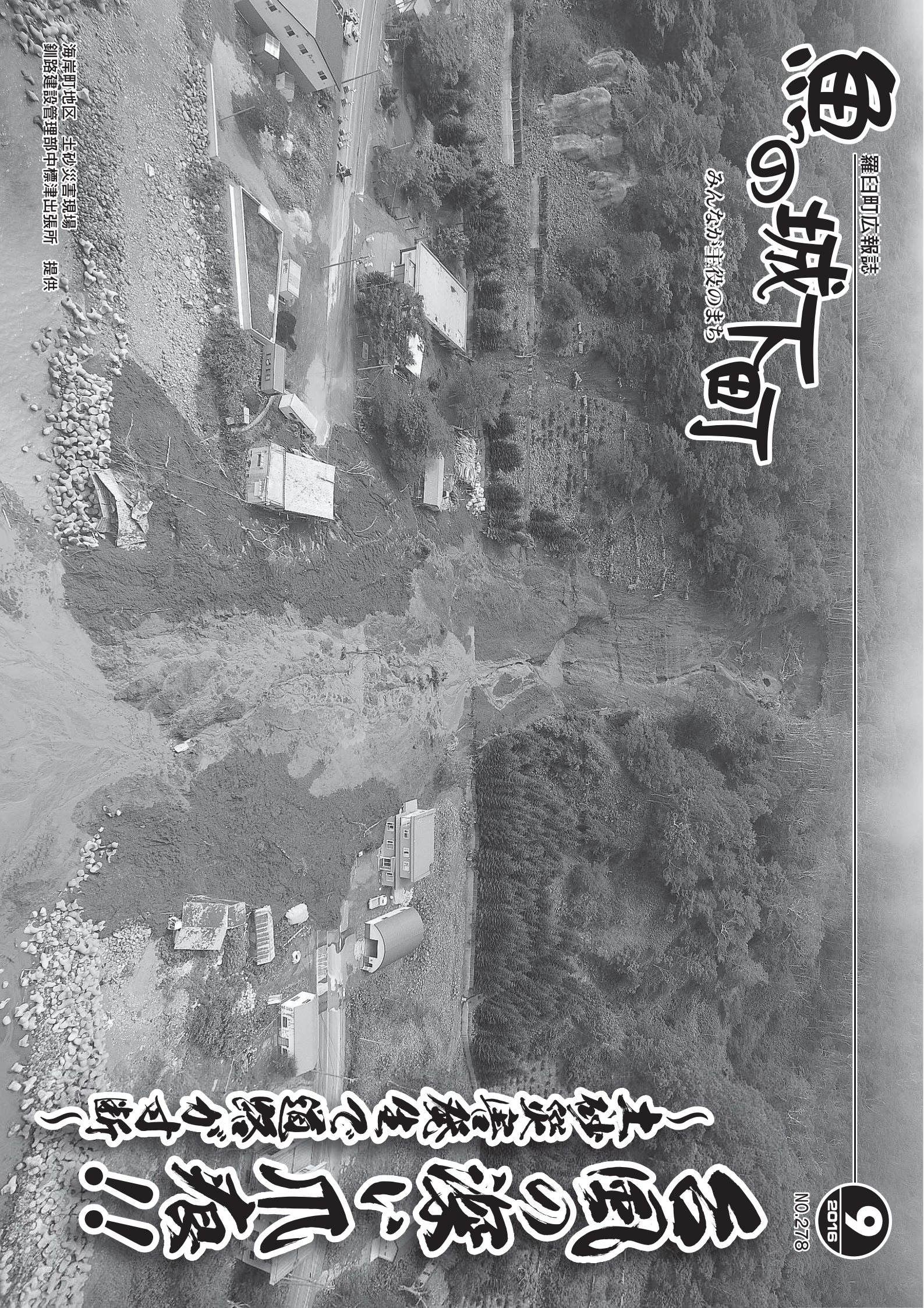


魚の城下町

みんなが主役のまち

台風の深爪痕!! 土砂災害発生で道路寸断

海岸町地区 土砂災害現場
釧路建設管理部中標津出張所 提供



記録的大雨により町内各所において

大規模土砂災害発生!!

八月は、三つの台風が相次いで北海道に上陸するという気象庁が観測を開始して以来、史上初の事態に見舞われました。

羅臼町では十五日～二十四日かけて、総雨量^{554.5}mmを記録し、過去五年間の八月の平均総雨量約160mmを大きく上回り、約十日間で三倍の雨量を観測しました。その後も雨は降り続け、八月の総雨量は791mmと観測史上最高を記録しました。

今回の大雨により町内全域から、土砂崩れ等の通報があり、関係機関と連携し現地確認及び対応を行っていた二十四日夕方に海岸町地区で大規模な土砂崩れが発生しました。

二十四日の日中は台風一過のため数日ぶりの晴天となり昆布漁も行っていましたが、一週間以上降り続いた雨は土壌にたまり続け、十六時四十五分頃、旧海岸町南へき地保健福祉館があった斜面が崩壊、道道八十七号知床公園羅臼線を100mほど土砂が埋め尽くし、海岸にあった倉庫や空き家をなぎ倒し、海にまで流失しました。

これにより、海岸町以北²⁶⁶世帯⁷⁶⁰人が孤立し、電線が遮断され、電気、固定電話、携帯電話のライフラインが遮断されました。



孤立地区の移動及び連絡手段の確保のため、翌日二十五日には、知床羅臼観光船協議会の協力により、定期連絡船を羅臼漁港から知床別漁港間で運行、北海道電力、N.T.T東日本、携帯電話会社三社の尽力により、二十六日には携帯電話が一部復旧、夜遅くには、電気、固定電話が復旧しました。

また、今回の災害では、岬町コミュニティセンターと羅臼小学校に避難所を開設しました。岬町コミュニティセンターでは、ライフラインが途絶えた地区に対し、少しでも情報提供が出来るよう、復旧状況を伝える災害情報だよりの発行を行いました。

道道の復旧作業は、二十七日午前中、流木の撤去作業ののち、土砂の搬出作業を行いました。

土砂の搬出作業は二十四時間体制で行われ、三十日には十二時から十八時まで、の時間規制ではありませんが、片側交互通行で開通し、土砂災害発生から約一週間で孤立状態がようやく解消しました。



27日から始まった土砂搬出作業
釧路建設管理部中標津出張所 提供



連絡船に乗り込む住民の方々



避難所 岬町コミュニティセンターの様子

九月九日には、台風十三号から変わった低気圧の影響により、羅臼町では二十四時間総雨量が184mmとなり、観測史上最大を記録しました。

この大雨により、八月に続き町内各所で土砂崩れが相次ぎ、九日二十時頃、国道335号線礼文町ソスケ地区で、海岸まで到達する土砂崩れが発生しました。

国道の復旧作業は、十日九時三十分頃から土砂の搬出作業が行われ、十八時には片側交互通行が可能となりました。

また、この土砂崩れで、現場で道路の監視をしていた建設会社社員の方が巻き込まれ亡くなるという、大変痛ましい結果となっていました。



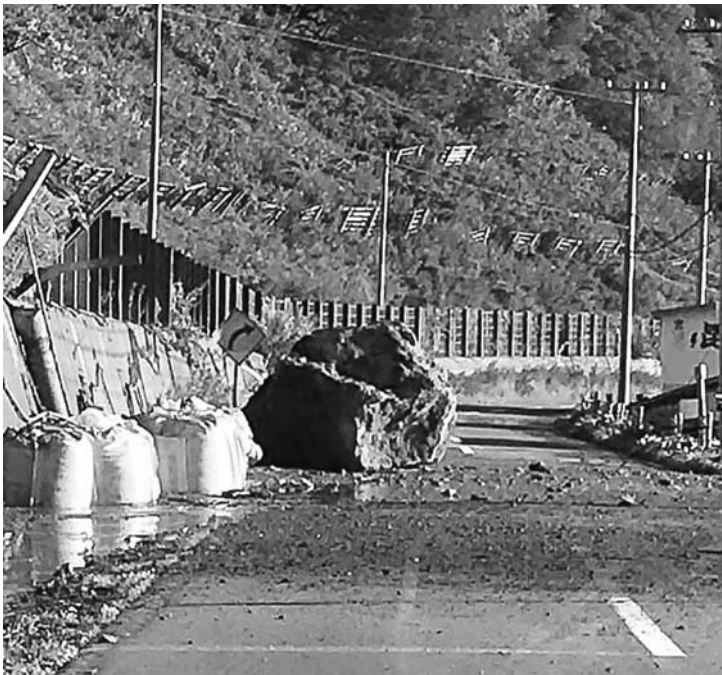
国道335号線礼文町ソスケ 土砂崩れ現場



国道87号知床公園羅臼線 昆布浜地区（熊岩付近） 土砂崩れ現場

道道八十七号知床公園羅臼線でも数力所の土砂崩れが発生し、十日未明には、昆布浜地区（熊岩付近）で、大規模な土砂崩れが確認されました。この土砂崩れで、電線が遮断され、土砂崩れ発生箇所以北の電気、固定電話、携帯電話のライフラインに影響がでていますが、関係機関による懸命な復旧作業が行われております。（九月十一日現在）

今回の災害では、各関係機関が力を併せ全力で対応及び復旧作業を行いました。地域の住民や事業者の方々のご協力があったからこそ、対応ができたものと考えています。



国道87号知床公園羅臼線 瀬石地区 落石

今後においても、いつ、どのような災害が発生するかわかりません。災害発生時は、行政が行う救助及び支援の公助はもちろんですが、自分の命は自分で守るという自助を心掛け、地域において助けあう共助にご協力をお願い致します。

また、町では「防災メール」の登録を呼びかけています。まだ登録されていない町民の方は是非登録をお願い致します。なお、登録の方法等は役場総務課までお問い合わせ下さい。

今回の災害で被災された方々にお見舞い申し上げますとともに、亡くなられた方に、心からお悔やみ申し上げます。



知床未来中学校の建設工事着工へ



子どもたちの未来に向けての成長と、学び舎を築立って羅臼町のみならず様々な分野においても、はばたき、活躍できるようにとの願いを込め、名づけられた「知床未来中学校」。

平成三十年四月開校に向け、建設事業が始動

羅臼町立学校適正配置計画に基づき、新たな中学校となる「知床未来中学校」の建設工事が平成二十八年八月一日に始まりました。

新校舎は鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）三階建（一部四階建）、延床面積5,266㎡で災害時の防災拠点としての機能も兼ね備えています。

今後は平成三十年の校舎完成、平成三十年度の学校開校を目指し工事を進めてまいります。校舎及び屋体の整備は次の特定建設工事共同企業体（JV）により進められます。

- 建築主体 〓 早水・廣木・酒井・加我JV
- 電気設備 〓 高部・羅臼電工社・中村JV
- 機械設備 〓 池田・奥村・大水JV

設計は(株)アトリエアクが担当。限られた敷地内で、生徒の学校活動や教育活動がより機

能的に行えることを最も重要視しつつ、地域開放も盛り込んだ学校づくりが図られています。

どんな中学校になるのでしょうか

I 学びをつなげ教育の未来を創る学校

〓 学びの接続を大切にし教育変化に柔軟に対応。生徒の可能性を引き出す教育空間〓

* 余裕ある普通教室のスペース。

* 生徒数の増減、弾力的な集団編成や多様な学習形態にも対応できる教室。

- ・ 「少人数教育」・「習熟度別学習」・「小中或いは中高一貫教育」への対応
- ・ 多目的スペースの配置

* 校内LANを導入。インターネットでの交流授業やコミュニケーションを可能とする情報環境を推進

* 生徒の登下校や、屋外での活動など生徒の見守りを支える職員室の配置

* 親しみやすい雰囲気職員室

* 相談室・カウンセラーームの設置

* 検診車・救急車との接続を可能とする保健室の配置

II ゆたかな心と健やかな身体を育む学校

〓 人と自然にやさしく健康的で快適な学校をつくる〓

* 快適な登下校と安全面に配慮し、学校敷地付近までの歩道シエルトの延長整備

* 夏・冬を快適にする断熱や省エネ対策（温泉熱利用）

* 日照や、採光等へ配慮し落ち着いた雰囲気と、四季折々の自然を感じることで

できる開放感のある校内空間の創出。

* コネスコスクール活動など多様な学習形態への対応

* 限られたグラウンド敷地に、積極的に体力づくり活動が進められるよう、トラック200m、直線100mを確保。また、授業のほか部活動・体育祭等への多様な活動に対応した快適で機能的な

外構施設の整備を今後検討（屋外テニスコートも整備）

* 体育館は、体育授業、部活動のほか、音響設備に配慮し各種行事等にも対応。体育館外（二階廊下など）から試合観戦等もできる小規模なギャラリー窓の設置。武道場も整備。



III 地域と共生する学校

～安全・安心で地域住民にも利用しやすい開かれた学校をつくる～

- * 地域の人々の学習・スポーツ活動等への学校開放と、多目的ホールの整備。
- * PTA活動室の設置。
- * 閉校となる両校の記憶と、新たな学校の歴史を刻むメモリアルスペースの整備。
- * 利便性を考慮しながら安全性向上のため死角をなくす動線や施設配置。防犯設備の充実。
- * 自然災害に強い強固な施設。地域防災拠点・避難所として利用ができ、防災備蓄品・関連用具の保管スペースを確保。
- * 幼児から高齢者までに優しいユニバーサルデザインの導入。

町内の中学校が連携。開校(及び現校の閉校)に向けての準備作業もはじまる

開校に向け、羅臼中学校と春松中学校の両校長先生が中心となり教員による開校準備部会が組織されました。町教育委員会や役場内検討委員会とも連携し「新中学校は、どんな

子どもたちをどう育もうとしているのか」を明確とし、内外へ発信するため、目下「学校基本理念」や「校訓」、「学校教育目標」が論議されています。開校準備部会では、これら指針を基にさらに「目指す生徒像・学校像・教職員像」などを検討。その後「学校評価」、「教育課程の編成」、「学習評価」、「指導計画」、「学校行事」など様々な協議に移っていくこととしています。

あわせて、既存校の閉校に向けての事業についても、これら組織と地域を含めた協議体を形成し検討していく予定です。

校章デザインも決定

香川県・新田憲明さんの作品

「オジロワシ」をモチーフに翼を広げ大空に羽ばたく様子をデザイン化しています。

未来に向けて「飛躍・発展」する「知床未来中学校」の姿を、

来中学校」の姿を、

さらに、こころざしを強く持った生徒たちが立派な人となる姿をイメージしています。



今後の予定

平成二十八年八月 新中学校建築工事着工
(平成二十八年度中は基礎工事のみの予定)

平成三十年二月 新校舎完成

平成三十年三月 羅臼・春松中学校校舎解体

四月 知床未来中学校開校

グラウンド外構工事

通学路シールド新設工事

※以上は、あくまでも現時点での予定です。



羅臼中学校グラウンド敷地内で始まった基礎関連工事
(杭打ち作業) H28.9.1撮影

元気な町をつくるために

〜羅臼町データヘルス計画を策定しました〜

増え続ける医療費や介護費などの社会保障費に対し将来に渡って制度を継続させるために、様々な法律が改正され、各地域において地域の事情を客観的なデータに基づいて分析し、医療保険者が効率的、効果的な保健事業（健診や健康相談など）を行うことになりました。その実施のための計画がデータヘルス計画です。羅臼町でも計画を立てて、健康づくりを進めます。今回は町にどんな課題があるのか、データを分析した結果をご紹介します。

1. 死亡の状況（表1）

亡くなる方が全国や北海道に比べて多くなっています。中でもがんで亡くなる方が多いことがわかります。※同規模平均とは、人口規模が同程度の市町村を指します。

表1

			羅臼町		同規模平均		北海道		国	
			実数(人)	割合(%)	実数(人)	割合(%)	実数(人)	割合(%)	実数(人)	割合(%)
死亡の状況	標準化脂肪比 (SMR)	男性	106.7		104.6		101.0		100	
		女性	115.7		100.7		97.6		100	
	死因	がん	28	62.2	6,784	44.3	18,453	50.8	364,251	49.0
		心臓病	10	22.2	4,467	29.2	9,496	26.1	196,557	26.4
		脳疾患	4	8.9	2,746	17.9	4,977	13.7	118,229	15.9
		糖尿病	0	0.0	291	1.9	674	1.9	13,800	1.9
		腎不全	2	4.4	595	3.9	1,609	4.4	25,091	3.4
		自殺	1	2.2	435	2.8	1,145	3.1	25,917	3.5

2. 介護の状況（表2）

介護保険に関係するお金を見ても、一件当たりのサービス利用にかかる金額が多く、介護の認定をされている方は医療費も高くなっています。

表2

			羅臼町	同規模平均	北海道	国
介護給付費(円)	1件当たり給付費(全体)		72,527	70,059	59,486	58,761
	居宅サービス		50,602	40,657	38,600	39,562
	施設サービス		297,497	277,200	286,848	284,402
医療費等(円)	要介護認定別	認定あり	8,199	8,448	9,089	8,011
	医療費(40歳以上)	認定なし	5,823	4,196	4,749	3,886

3. 医療の状況（表3）

北海道の中でも医療費はあまりかかっています。全国的な状況ですが、入院件数が少ないにも関わらず、かかる医療費が高くなっています。入院するということはそれだけ病気が重症化しているということですので、入院する人が減ると医療費はもっと減ることを考えられます。

表3

		羅臼町	同規模平均	北海道	国	
医療費の状況	一人当たり医療費(円)	22,173	26,509	27,835	24,452	
	受診率(%)	429.124	677.262	665.128	685.692	
	外来	費用の割合	48.1	57.5	55.9	60.8
		件数の割合	95.4	96.7	96.6	97.4
	入院	費用の割合	51.9	42.5	44.1	39.2
		件数の割合	4.6	3.3	3.4	2.6

4. 健診の状況(表4)

健診の受診率は以前から低く推移していますが、同規模の市町村に比べても(同規模平均)半分以上になっています。病気を予防するための入口が健診です。健診を受けていただければ、予防の活動が推進できません。さらに、病気があって病院に定期的に通院している方も、今以上に病気を悪化させないために健診を受けていただく対象になっています。

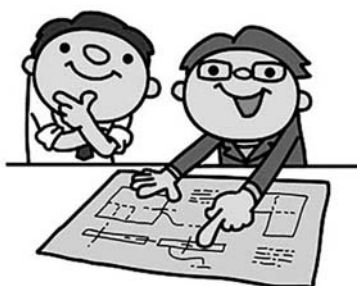
町としては医療費はあまりかかっているのですが、それ以外の社会保険費(介護の費用や福祉にかかる費用)はかかっています。脳卒中などの重大な病気になることで、死亡や後遺症が残る場合が多く、仕事ができなくなったり、自分で身の回りのことができなくなってしまうこともあります。腎臓が悪くなると、週に三回ほど四〜五時間をかけて人工透析を受けることが必要になり、大変な治療を長期にわたって受けなければなりません。予防できる病気である脳卒中や心臓病、腎臓病を減らすことは、医療費を減らすことにもつながりますが、なによりも元気な町をつくっていくことになります。

表4

		羅臼町		同規模平均		北海道		国		
		実数(人)	割合(%)	実数(人)	割合(%)	実数(人)	割合(%)	実数(人)	割合(%)	
特定健診 の状況	検診受診者	276		146,193		220,394		7,446,334		
	受診率(%)	17.0	道内153位 同規模229位	40.3		25.1	全国44位	33.5		
	メタボ	該当者	39	14.1	25,502	17.4	35,525	16.1	1,244,549	16.7
		男性	27	17.1	17,712	26.1	24,286	26.5	853,606	26.5
		女性	12	10.2	7,790	9.9	11,239	8.7	390,943	9.2
		予備群	37	13.4	16,764	11.5	23,622	10.7	793,228	10.7
		男性	30	19.0	11,672	17.2	16,516	18.0	549,439	17.1
		女性	7	5.9	5,092	6.5	7,106	5.5	243,789	5.8
	喫煙	95	34.4	22,870	15.7	37,396	17.0	1,057,576	14.2	
	毎日飲酒	68	24.7	36,191	25.9	46,548	22.0	1,766,221	25.6	

皆さんは病気でどんどん人が亡くなってしまったり、介護を受けなければならぬ人がたくさんいる町に住みたいとお考えですか？病気はあってもコントロールをしてうまく病気と付き合い、天寿を全うしていただく方が増えていけば、若い世代の負担も軽くなると思います。

そのために町では計画を立てて、保健活動を効率的に行っていく予定です。重点的には、健診を受けご自分の体の状態を知っていただけのようなお話をさせていただく活動をします。健診で病気になりそうなくリスクを持った方には、病気にならないようにするために生活をどうしていけばいいのかを一緒に考えます。健診を受けていない方へのアプローチにも力を入れます。活動の評価を必ず行い、住民の皆さんへお知らせし、また次の活動へつなげていきたいと考えています。



がんは、早期発見すれば 90%以上が治ります。



2016年も残り3か月となりました。
今年のがん検診はお済みですか？

がんは突然発症する病気ではありません。元々、私達の体の中にある細胞がなんらかの原因（例…タバコ、塩分や脂肪の多い食事、ウイルス等）で傷つき、がん細胞へ変化します。がん細胞は健康な人でも1日に数千個発生していますが、免疫細胞により消えています。しかし、健康な体でもがん細胞が消えずに細胞分裂を続け、1cmサイズになったものをがんと呼びます。

早期のがん（2cm位まで）では、症状がないことが普通です。そのため、がんがあることがわからず細胞分裂を続けてがんが大きくなり、死に至ることがあるのです。

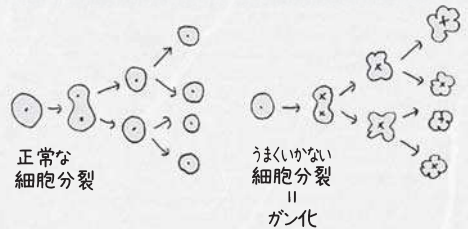
がん検診は1cmほどの早期がんも発見できます。昨年の町の健診でもがんが発見された方が数名いましたが、すぐに精密検査を受診し、速やかに治療を受け仕事復帰された方もいます。

今年、がん検診を受けていない方、この機会にぜひ検診を受けてください。

町では、がん検診を受けるにあたり

- ①対象年齢へ無料がん検診クーポン配布
- ②総合健診や町が契約している施設での検診費用助成をしています。

詳しくは保健福祉課に問い合わせください。



羅臼町役場 保健福祉課 TEL87-2161

子育て情報ひろば ~すくすく~

◆お箸を上手に
使えるのはいつごろ◆

「何歳になったらお箸を持てるようになるのだろうか」という質問をされることありますが、旭川療育センターの作業療法士さんに伺ったところ、きちんと持てるようになるのはだいたい四歳以降らしいです。でも年齢に達したからといって出来る訳ではなく、それまでの運動発達が大切なんだそうです。

産まれてから、一人歩きするまでの赤ちゃんの動き、特に四つ這いをする中で肩・肘・手の平・指先などが強化されて、お箸が持ちやすくなるようになります。「そんな時期、もうとっくに過ぎちゃった」と思われた方も遅くはありません！トネル遊びなどで試してみてもいいですね！

握り	①手掌外握り	②手掌内握り	③手指内握り	④3指握り
年齢	1~2歳	2~3歳	3~4歳	4歳以降
動きの中心	肩、肘関節	肘関節、前腕	前腕、手関節	手指、手関節
必要な安定点	体幹、首の安定	肩の安定	肩、肘の安定	前腕の安定

★10月・11月の子育て支援センター情報♪

☆ありんこ広場 (0歳~3歳対象) ☆すくすく広場 (1歳未満対象・妊婦さんの見学可) ☆のびのび広場 (2歳~3歳対象)

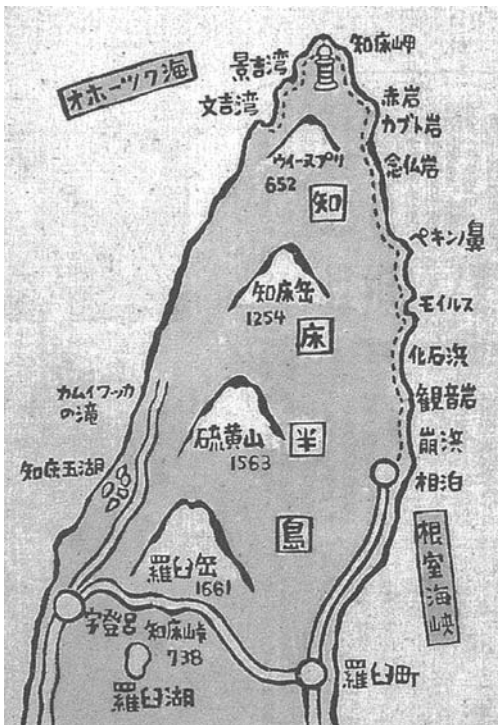
10月 3日 ママの日♪	10月 6日 健康ヨーガ教室	10月 7日 すくすく広場
10月19日 羅臼幼稚園訪問	10月20日 健康ヨーガ教室	10月21日 のびのび広場
11月 4日 すくすく広場	11月 7日 ママの日♪	11月10日 健康ヨーガ教室
11月17日 ★おはなし会	11月24日 健康ヨーガ教室	11月25日 のびのび広場
11月28日 計測		

* 健康ヨーガ教室については事前に申し込みが必要です。★印は公民館で行います。
* お問合せ先：羅臼町子育て支援センター『ありんこ』 Tel88-1515

ふるさと少年探険隊

■日程：平成28年7月30日(土)～8月4日(木)
 ■主催：羅臼町子ども会育成協議会
 羅臼町教育委員会・羅臼町公民館

羅臼町内の小学4年生～中学3年生が夏休み期間中、相泊より道の途切れた知床半島先端部を歩き、5泊6日の長期野外活動に取り組む「ふるさと少年探険隊」。今年で34回目を迎え、わんぱく隊12人、チャレンジ隊16人、合計28人の子どもたちが参加しました。



相泊から知床岬先端までは約24km
 (絵/関屋敏隆氏)

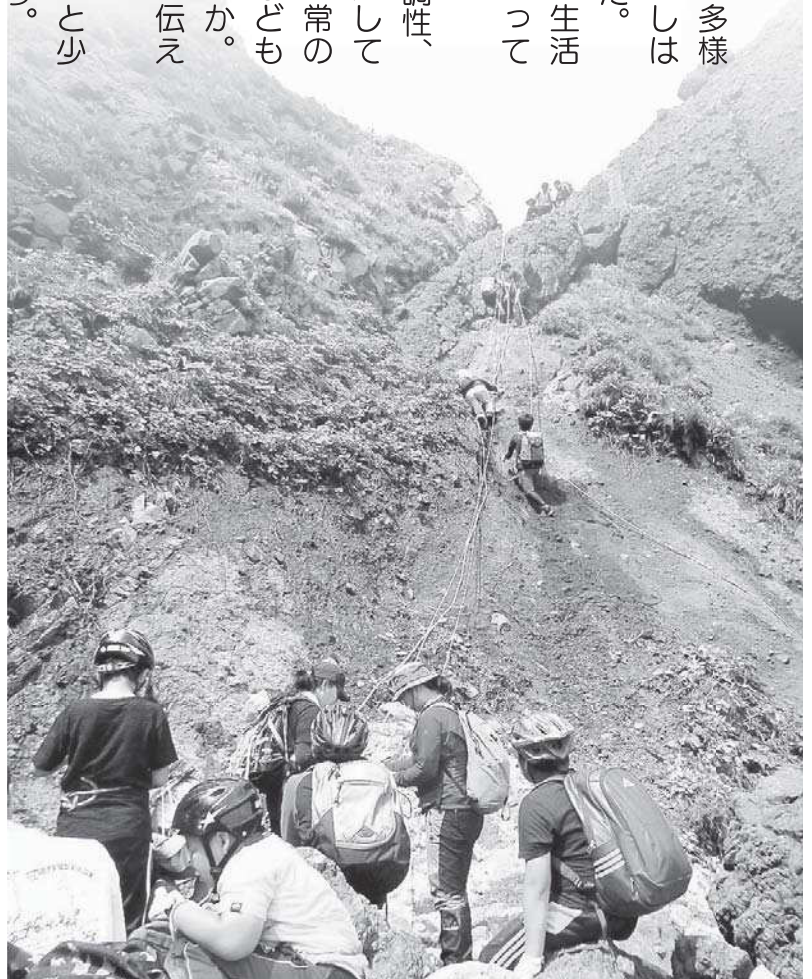
「生きる力」を育み続けて

進化し続ける情報の伝達網、遊びの多様化等、ほんの一昔と比べて人々の暮らしは格段に豊かに、そして便利になりました。

しかし、それ故に最近の子どもは、生活体験や自然体験をする機会が少なくなってきていると言われています。

仲間と行動していくために必要な協調性、忍耐力、そこにあるものを最大限活用して生活する創造力。便利が当たり前の日常生活において、生き抜く力を現代の子どもたちにどう育んできているのでしょうか。そして、大人たちは子どもたちに何を伝えようとしているのでしょうか。

今年で三十四回目を迎えた「ふるさと少年探険隊」はその答えを教えてください。



初日最後の難所、通称タケノコ岩
 練習したロープワークを駆使し崖登りにチャレンジする

電気もガスも水道もない中で：

非日常での集団生活では、テレビがなければインターネットの回線ももちろんありません。薪を割り、火を起すところから食事を作り、洗い物も川水を利用しすべて自分たちで行います。グループでの生活や活動を通して、己を知り、他人を知る機会がそこにはあります。ここでは、誰の力でもなく、自分で考え、判断し、行動することが求められます。

過酷な自然環境に投げ出された子どもたちは、自分の思い通りにならないことを自然の中で体験的に学び、生き抜くために必死に考え行動するのです。

5泊6日

知床半島縦走！第34回



探険隊のねらい

- 一、ふるさとの自然に親しみ、ふるさとの理解を深める
- 一、団体活動の大切さを知り、仲間と協力して仕事をやりとげる
- 一、厳しさやつらさに耐え、目的に向かって頑張る力を身に付ける
- 一、働くことの尊さを、喜びを知る

「ゆるくないけど、やってきたさあ〜」

伝える大人たちの思い

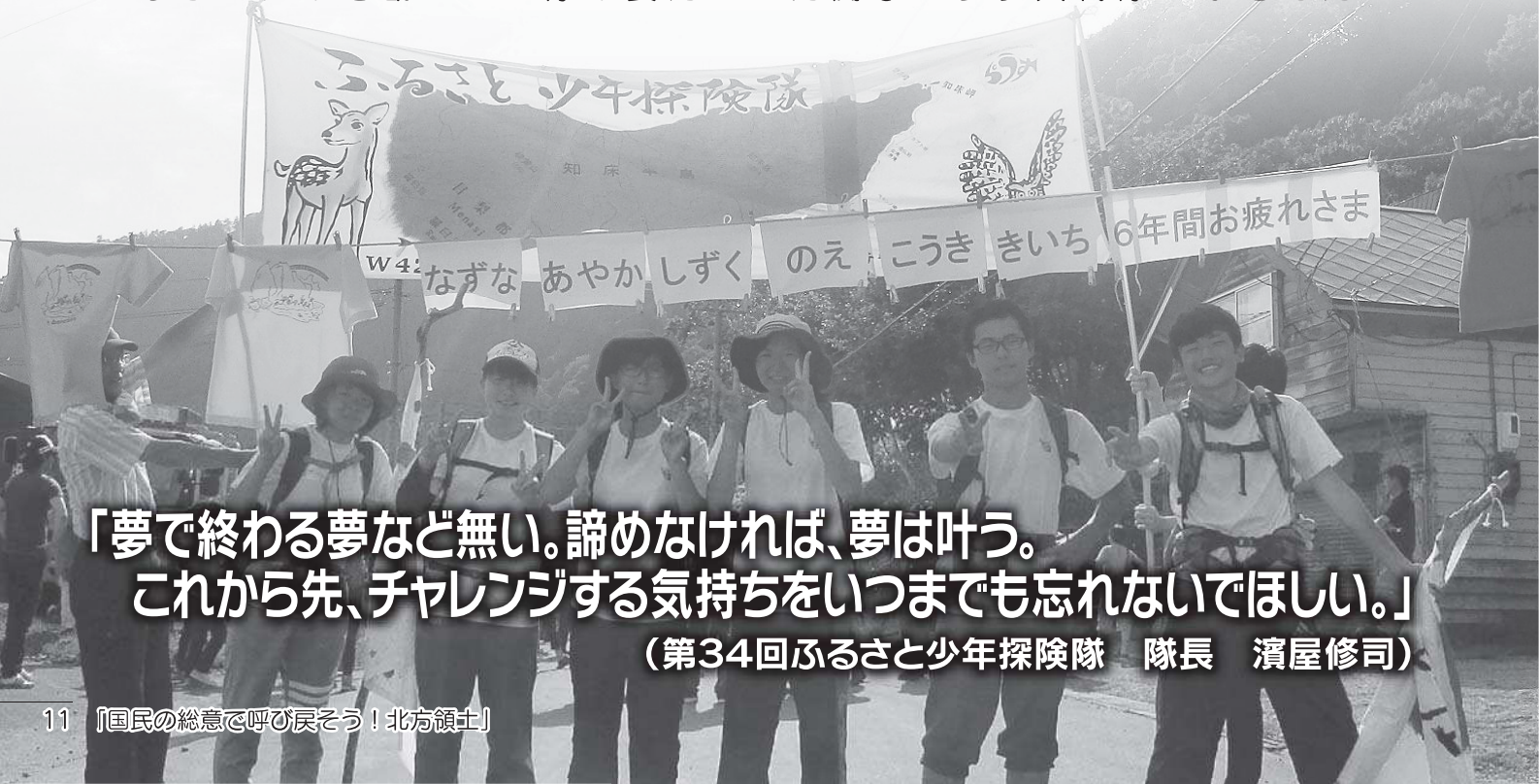
「夕日を見たことのない羅臼の子どもたちに、最高の夕日を見せてあげたい。」そんな思いから始まった探険隊。全国に類を見ないこの壮大なスケールの事業が大きな事故なく三十四年間も継続されています。これも一重に、ふるさと少年探険隊濱屋隊長、(尙)丸卜田中水産をはじめとする、歴代子ども会指導員や沢山の地域の企業や大人たち、経験豊富な道内外から結集するボランティアスタッフの多大なご尽力の他なりません。

大人もゆるくない状況の中で、時には子どもをつきはなし、時には親身になって関わりますが、一様に「次代を担う子どもたちに、たくましく育てて欲しい」との思いに賛同しています。

そうして集まるスタッフは、参加するたびに新たな感動に浸り、子どもたちの成長に触れ、ふるさと羅臼を担う子どもたちのたくましさの可能性を抱きながら、探険隊を支え続けてくれています。

達成感と充実感

今年度は、土砂崩れの影響から通称「観音岩」や「タケノコ岩」等の崖登りは難を極め、わんぱく隊の三日目にはスコールのような大雨に見舞われました。チャレンジ隊は啓吉湾などでヒグマにも遭遇しました。しかし、そうした困難を乗り越えての大きな達成感や、やり遂げた充実感は、子どもたちの心の中に煌々と灯され続けます。



「夢で終わる夢など無い。諦めなければ、夢は叶う。
これから先、チャレンジする気持ちをいつまでも忘れないでほしい。」

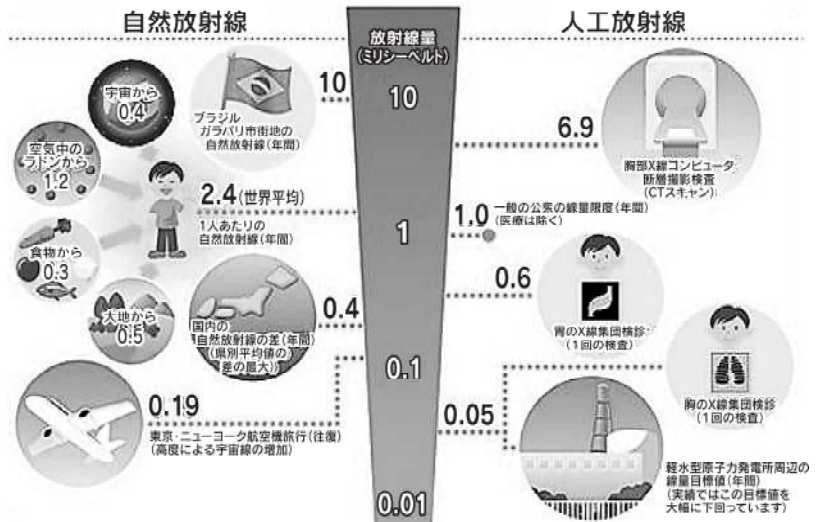
(第34回ふるさと少年探険隊 隊長 濱屋修司)

放射線ってなに？

～みんなで育む・みんなの診療所～

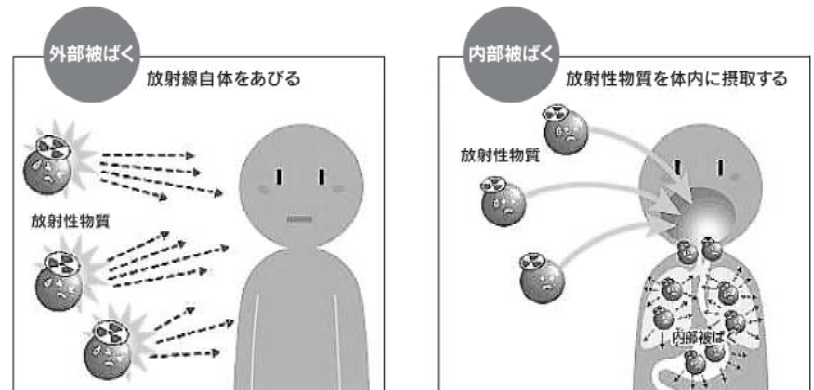
○身の回りにおける放射線(自然放射線)

放射線は、宇宙や地面、空気、そして食べ物からも出ています。目には見えませんが私たちは常に放射線がある中で暮らしています。ちなみに自然放射線の量は年間で2.4mSv(ミリシーベルト)という線量で、その内訳としては空気から1.2mSv、食べ物から0.3mSv、大地から0.5mSv、宇宙から0.4mSvとなっています。



○放射線ってどんなもの？

放射線は、太陽や蛍光灯からでてくる光のようなものです。光と放射線の違いは、放射線が光より「もの」を通り抜ける働きが強いということです。

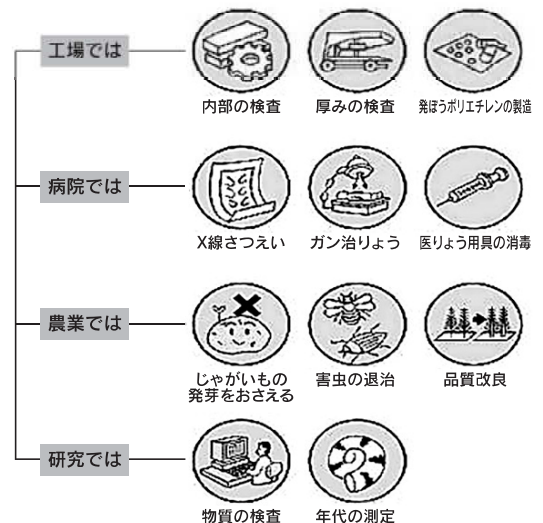


○放射線被曝ってなに？

放射線を浴びることを言います。放射線被曝には内部被曝と外部被曝があり、原発事故で主に問題となっているのは内部被曝です。

○放射線の使い道

放射線の性質である「ものを通り抜ける働き」を利用することによってレントゲン写真やCTなどで人体を切らずに体の中の様子を確認することができます。この他にも放射線には「もの(材料)を強くする働き」や「細菌を退治する働き」などがあり様々な場面でそれらの性質が活用されています。



～予約・お問い合わせ～
知床らうす国保診療所

Tel 87-2116



(エネルギー環境教育情報センター「ENERGY kin kon kan」より掲載)



城下町のわだい

みんなごまちづくり

町では協働のまちづくりを推進しています。
ここでは、町民や団体が自らの意思で「協働のまちづくり」を実践している方々を中心に取上げ掲載していきたいと考えています。
みなさんも「協働のまちづくり」にご参加下さい！

7月6日(水)・7月20日(水)

今日からゴミ処理マスター

社会科学習の一環として両小学校四年生の生徒が清掃センターを見学しました。

生徒たちは、普段訪れることのないセンター内の設備に興味津々な様子で、空き缶処理の工程には前のめりになるくらいくぎ付けでした。

見学を終えた生徒からは、「今まで正しく分別しているつもりだったけれど、足りていない部分や間違っていた分別方法を知ることができてよかった。」という意見が多く寄せられました。

町民皆さんでゴミの少ない町を目指し、正しい分別を心がけましょう。



7月16日(土)

新しい観光場所・魅せる空間

新たな情報発信の拠点として羅臼町観光協会事務局や会員をはじめ町民ボランティアの方々に造り上げ、約四ヶ月の準備期間の元、ギャラリーミグラードをオープンさせました。

オープン記念セレモニーでは、関係者やお祝いに駆け付けた町民の方々に会場内は賑わいをみせておりました。

ギャラリーミグラードではオープン企画として、羅臼の郷土写真展「知床岬の昆布漁」が行われ、第二弾の企画としては、山本純一写真展「原始の大地ー知床ー」が開催されております。知床で撮影された動物や景色が季節ごとに展示されており一つの部屋、一枚の写真から感じられる壮大な光景に圧倒されるギャラリーとなっております。

町民や観光客問わず魅了される空間となっておりますので足を運んでみてはいかがでしょうか。



7月20日(水)

犠牲者を出さないために!!

夏の交通安全運動週間に伴い、本町みどりの会では初めて交通安全運動を実施しました。

多くの観光客が訪れる道の駅前で実施し、総勢十六名の参加者の元、安全運転を呼び掛けていました。

昨年、死亡者を出す交通事故が発生したことで、「更なる犠牲者を出さない」という強い思いから今回の取り組みに至り、今後も継続させていきたいとのことでした。
一人一人が安全運転を心がけ交通事故を防いでいきましょう。



7月22日(金)~24日(日)

第3回しれとこ羅臼こんぶフェスタ

今年で三回目となるしれとこ羅臼こんぶフェスタが開催されました。

地元の若者が集まり、羅臼町活性化ワーキンググループを立ち上げ運営している本フェスタですが、今年からは新しいスタッフも加わり総勢三十三名で当日に向け準備を進めてきました。

当日は、天気にも恵まれなかったものの夏休み期間に突入した小学生や道の駅を訪れた観光客が多数来場され、フェスタの目玉イベントである「昆布漁体験」で羅臼昆布の魅力に触れたり、羅臼の地場産品を使用した料理を堪能したりと、三日間大盛況のうちに幕を下ろしました。
実行委員、関係者の皆さんお疲れ様でした。



7月27日(水)

平成28年度 北方少年交流事業

北方領土隣接地域の一市四町に在住する北方領土元居住者の三世、四世等の中学生を対象に内閣総理大臣を始め関係大臣への表敬訪問を行い、北方領土問題の早期解決を訴えるとともに、同世代の少年少女との交流を図ることを目的とする事業が行われ、羅臼町からは春松中学校三年生の四ツ屋聖さんが羅臼町の代表として参加してきました。

四ツ屋聖さんは、元島民四世として平成二十七年年度ビザなし訪問で色丹島に訪問され、また「北方領土の日」根室管内住民大会弁論発表大会に出場される等、北方領土問題に取り組みられております。

今回の北方少年交流事業を終えて「直接、総理大臣に会うことで北方領土問題について深く知ることができ、また、同世代の人達と意見交換をすることで様々な角度から北方領土問題、解決策を考えることができました。」と想いを語ってくれました。

これからも更なる北方領土返還に対する取り組みに期待しております。



首相官邸で安倍総理大臣、前島尻北方担当大臣と記念撮影

7月28日(木)

復興を祈り

羅臼町連合町内会は、平成二十八年度熊本地震災義援金を羅臼町へ寄贈されました。

六月に開催された五十周年を記念した「記念式典・祝賀会」にて募金箱を設置し、また各町内会より寄付を募り集められました。

羅臼町連合町内会宮腰会長は、「一日も早い復興をお祈りしたい。」と話されており、お気持ちも併せて日本赤十字社を通じて被災地へお届けします。



7月30日(土)

「勝利」の二文字を目指し

根室地区中学校体育大会において、羅臼中学校・春松中学校女子バレーボール部（横井啓貴監督）は優勝し、「第四十六回北海道中学校バレーボール大会（苫小牧市）」に、また、剣道男子個人戦で三位となった羅臼中学校小林岳飛さん、剣道女子個人戦で優勝した羅臼中学校石崎椋さんは「第三十七回北海道中学校剣道大会（札幌市）」に出場しました。

町長へ表敬訪問をした際に、女子バレーボール部キャプテンの川内谷綾音さんは、「根室管内の代表として全力で悔いの無いように頑張りたい。」と話し、剣道女子個人戦に出場の石崎椋さんは、「まずは初戦突破を目標に頑張りたい。」と、それぞれ全道大会への意気込みを語りました。

なお、七月三十日に大会は開催され、結果は女子バレーボール部、剣道二名ともに予選敗退となりましたが、全道大会出場という貴重な経験を活かし、これからも充実した活動を送っていただきたいと思えます。皆さんお疲れ様でした。



後列左より 岩瀬 亜海さん 長川明結菜さん 吉田 夏唯さん
小嶋 実夕さん
前列左より 小野寺風花さん 岩瀬 琳香さん 石井 美羽さん
川内谷綾音さん 石崎 椋さん 小林 岳飛さん

8月1日(月)

お世話になります

知床らうす国民健康保険診療所に平成二十八年八月一日付けで手塚誠所長が着任されました。

手塚誠所長は、旧診療所時代から約四年間羅臼町で勤務され、この度二年振りに羅臼町の診療所で勤務されることとなりました。

手塚誠所長からは、「再度勤務することになり驚いているが、全く知らない土地に來たわけではなく、受診される多くの町民さんが以前からの患者さんということもあり懐かしい気持ちでいます。」とお話されました。

また、手塚誠所長の診察を心待ちにしている患者さんも多く、喜びの声が多いそうです。



8月24日(水)

3年ぶりの実施

羅臼高校生による知床横断遠足が三年ぶりに実施されました。台風の影響で開催が心配されましたが、当日は晴天の中、知床峠をスタートし、知床の自然に触れながら仲間と共にゴールを指しました。

三年生にとっては最初で最後の体験となり、オリジナルのクラスTシャツを身にまとい励まし合いながら歩いていく様子が印象的でした。参加された皆さんお疲れ様でした。



8月30日(火)・9月2日(金)
9月5日(月)・9月8日(木)

今年も寄港!! 何度みても大きさに感激

昨年にひきつづき今年で四回目となる大型客船「つぼん丸」(全長166.65メートル、総重量22,472トン)が羅臼町に寄港しました。

台風の影響で高波となったため予定していた四回の寄港とはならなかったものの、九月二日、九月五日の二日間については、羅臼漁港へ寄港し、全国各地から訪れた乗船客は、それぞれクルーズに出かけたり、「知床羅臼」旬の「ダイニング」にて羅臼の食を堪能されたりと楽しんでいく様子が見られました。

町民を対象に実施している「つぼん丸船内見学会」では、「つぼん丸」を目の前にし、想像以上の大きさ、設備に参加者は驚いており、次は乗船客として様々な設備を楽しみたいという声が多く出ておりました。

また、六月の知床開きで羅臼大使を委嘱し、今回の寄港に併せ改めて、委嘱状の交付・記念品の贈呈を行い、「つぼん丸」からは、八月二十四日に羅臼町で発生した土砂災害に対して船内で集めた災害義援金の寄贈がされました。羅臼町にとっても励みとなるご厚意で、感謝の気持ちで受け取らせていただきました。ありがとうございました。今後の復興に役立てていきます。



TAXコラム

(税務財政課通信)



国保税は、みなさんがお使いの羅臼町国民健康保険を支える大切な財源となる税金です。

町民の方から、よく「なぜ、国保税はこんなに高いんだ」と言われます。

国保税が高い要因はいくつかありますが、大きくは二つのことです。

一つは医療費が増えています。これについては、医療費の削減方法として、健康診断の受診勧奨やジェネリック医薬品の使用を推奨しています。

もう一つは、国保税の滞納です。国保会計の中で「国保加入者が全員で負担する額」が国保税です。国保税は「国保加入者が全員で負担する額」ですので、未納者の分も全員が負担している事になり、きちんと納付しているみなさんに必要以上の負担をかける非常に大きな問題です。滞納しないよう納期ごとの納税をお願いします。

尚、滞納対策として納期限が過ぎた場合は、延滞金が加算される場合があります。やむを得ない理由がある場合は、すぐに役場税務財政課へご相談ください。

【9月は国民健康保険証切替時期です】

9月は保険証の切替時期です。一般の方については9月16日（金）に郵送致します。

しかし、税の滞納がある場合は、役場で納税相談を行ったあとにお渡しします。

また、滞納の状況により保険証の有効期間が短くなります。これにより、納税相談の機会を増やしています。さらに、悪質滞納者については資格証明証※を送付します。

滞納を減らし公平な納税をしていただくため、ご理解ご協力をお願いします。

※ 資格証明証とは、羅臼町国民健康保険の資格を有していることを証明します。しかし、医療機関窓口での支払は10割負担となります。支払後、領収書を持参の上、役場国保窓口で還付手続きを行い税務財政課で納税相談のあと相談内容に応じ還付します。

＜お問合せ先＞ 羅臼町役場税務財政課 TEL87-2113

寄付寄贈
ありがとうございました

【羅臼町災害義援金寄贈】
にっぽん丸乗船客皆様



知床・羅臼まちづくり基金

【地域資源を活かした
活力ある産業のまちに関する事業】

宗教法人 念法眞教 様

(平成28年6月7日)

平成28年8月30日受付分掲載



羅臼いさり火吟社

8月例会句
平成28年8月

下山道跳ぶ斑猫に教えられ

悠 羅

水滴を苔の花とす今朝の庭

英 美

丹精の薔薇咲き誇り崩れけり

鹿 山

兵長の墓に極まる草いきれ

泥 舟

蝉しぐれ海をのぞんで父祖の墓

羅 牛

俳句同好会「羅臼いさり火吟社」では投句を募集致します。住所・氏名・年齢・電話番号を明記し送付していただくか、下記までお問い合わせ下さい。

〒086-11823 羅臼町栄町

羅臼いさり火吟社

宮腰 實

(電話)0153-87-1375(8)

人の動き

平成28年8月末現在 ()内は平成28年7月末対比

人口 5,349人 (- 2) 男 2,643人 (- 2)
世帯 2,118世帯 (- 1) 女 2,706人 (± 0)

編集後記

表紙、特集記事にも掲載されているとおり8、9月は災害が相次いで発生し、不安な日々が続いております。災害発生中は防災メール・エリアメールで情報発信を行っており、防災メールについては町外にいても受信できるようなツールとなっております。まだ、登録されていない方は、ぜひ登録をお願い致します。

今回の取材では、知床横断遠足に参加してきました。当日は、「暑い、暑すぎる!!」という声が生徒から聞こえてくるくらい遠足日和でした。6年前は私も生徒として参加しており、仲間と歩いた楽しい懐かしい気持ちが入り込んできて学生時代に戻った瞬間でした。(A)

羅臼町民憲章

(昭和45年9月15日制定公示)

わたくしたちは、雄大な知床連峰と、オホーツクの海原の大自然にはぐくまれた、羅臼の町民です。

- 自然を愛し先人の強い意志ををうけつぎます。
- 健康で明るくたのしい家庭をつくります。
- 教養を高め、豊かな情操を育てます。
- 仕事に誇りをもち、はたらく喜びに生きます。
- 子どもたちの夢と、若い力を育てます。

